

経済と経営 29-4 (1999. 3)

〈論 文〉

留学生に対する英語教育の改善に向けて

尾 田 智 彦

1. は じ め に

札幌大学では、平成9年4月の文化学部並びに経営学部産業情報学科の開設以来、これら新学部・新学科を中心に、アジア方面からの留学生が急増している。これらの留学生は、しかしながら、英語力に関しては非常に幅があり、これまでほとんど英語を学んでいない学生もいる。英語教育に携わる者としては、彼ら多様な留学生にある程度の英語力をつけさせる方法を模索するため、彼らの故国の英語教育の現状や、彼らに相応しい教授法、教材の研究・開発など様々な観点からの調査・研究が必要と考えた。留学生に接し、共通の問題意識を抱いた鶴浦 裕（文化学部比較文化学科）及び尾田智彦（経営学部産業情報学科）は、平成10年度札幌大学研究助成を申請し、既に「台湾の現地調査」等を実施してきた。¹⁾

本論では、まず、本学アジア人留学生に対して行った英語学習に関するアンケート調査の結果について報告する。留学生の様々な英語学習歴や背景、英語学習に対する意識やニーズを改めて調べることで、これまで我々が漠然と感じていた彼らの「多様さ」の実態を明らかにすると共に、彼らの生の声を少しでも拾い上げようと考えたのである。またこのアンケートは、小規模

ながら、東アジア諸国の英語教育の実態を明らかにし、同じ EFL (外国語としての英語教育) 条件下での、わが国の英語教育の現状を比較考察する観点をも与えてくれる。

次いで、現時点での留学生に対する可能な教育改善の 1 つの方策として、中国語圏からの初級学習者用に試作した、2 カ国語解説による教材の実例を提案する。本学の現状では、中国語圏からの学生が数の上でも最も多く、中には少数ながら、全く英語学習の経験のない者もいる。多様なニーズの中でも、このような初学者の問題は最も深刻なものの 1 つと言えよう。更に、既習者の中でも改めて基礎から学びたいという学生も多い。まずは、その様な要望に少しでも応えるべく、後述のような教材を考えてみた。

更に、台湾より購入した、中国語解説による音声付きの英語教材等について言及し、それら既成の教材の活用も含め、大学としてのより望ましいカリキュラム編成等も視野に入れつつ、今後のあるべき英語教育の方向性についても考察する。

2. 英語学習に関するアンケート調査

2. 0. アンケートの実施と回答者

平成 10 年 12 月、本学の留学生を対象に、「英語学習に関するアンケート」を実施した。実施にあたっては、必修の日本語の時間に配布・説明の御協力を頂いた他、国際交流センターにも配布・回収その他で御協力をお願いした。結果、36 名の留学生から回答を得ることができた。

なお、本論中では、実際のアンケート用紙上での言葉遣いを簡略化して記述したところや、項目を回答数の多い順に並べ替えて表現してあるところがある。実際のアンケート内容は、巻末資料に掲載した。

まず、回答者を、学部・学科・学年別に分ければ、以下のようになる。

表1 回答者の学部・学科・学年

	1年	2年	その他	合計
経営学部経営学科	3	0	1	4
経営学部産業情報学科	9	7	0	16
文化学部日本語日本文化学科	4	6	0	10
文化学部比較文化学科	4	2	0	6
合計	20	15	1	36

また、彼らの出身国は、次のようになる。

表2 回答者の出身国

中華人民共和国	19	中華民国（台湾）	1
大韓民国	11	ロシア	1
マレーシア	3	タイ	1

中国や韓国からの留学生が圧倒的に多い点は、本学の留学生の現状をほぼ反映していると思われる。中国に関しては、出身地域がかなり広範囲に渡っており、地域によって、英語学習の背景はかなり異なっている²⁾。

次に、回答者をその母語（第1言語）によって分ければ、次のようになる。

中国語 ³⁾	18名
韓国語	11名
モンゴル語	5名
ロシア語	1名
タイ語	1名

関連して、「あなたは、母語の他に、どんなことばが使えますか？」という質問項目に対し、日本語の他に、次のような回答があった。

表3 母語の他に使える言語（日本語を除く）

英語	11	マレー語	3
中国語	5	ロシア語	1
母語と別の中国語（方言等） ⁴⁾	4	ドイツ語	1

どの程度使えるかは別として、この時点で 11 名が英語を「使える」と回答している。「マレー語」などの答えが（母語としてではなく）この項目に見られるのは、マレーシアからの留学生が主にその中国語圏の出身であることと関連すると思われる。

留学生は、最低でも母語と日本語の 2 カ国語を使うわけであるが、上記の質問項目と合わせて、彼らが（日本語も含めて）何カ国語を「使える」かをまとめれば、次のようになる。

2 カ国語	17 名
3 カ国語	15 名
4 カ国語	2 名
5 カ国語	2 名

このように、本学留学生の過半数は、母語と日本語の他に使える言葉があり、「5 カ国語」を使えると回答したものも 2 名いた。留学生は、その日本語学習も含めて、言語学習の経験は豊富であり、また問題意識も高いと思われる。

2. 1. 留学生の英語学習の背景

2. 1. 0. 故国の英語環境（全般的に）

次に、本学留学生の英語学習に関する調査項目について、その回答を挙げ、若干の考察を加えたい。まず、故国における英語使用の状況について、以下の質問をした。（アンケート 2. 1. ～ 2. 3.）

Q 2. 1. 日本に来る前の故国の生活で、どのくらい英語を使っていたか？

- ・ 自分の家でも、職場や学校でも（よく／時々）英語を使っていた 3 名
- ・ 家では使わないが、職場や学校で（よく／時々）英語を使った 11 名
- ・ 普段は使わないが、たまに英語を使う機会があった 5 名

- ・ 英語を使う機会は、ほとんどなかった 16名
- ・ 無回答 1名

Q 2. 2. 今の日本での生活と比べて、英語に触れる（英語を使う）機会は多かったか？

- ・ 日本よりも多かった 6名
- ・ 今（日本）と同じくらいだった 13名
- ・ 日本よりも少なかった 15名
- ・ 無回答 2名

アンケート 2. 1. の質問で、「たまに英語を使う機会」として挙げられていたのは、「かつての職場」というものが多かった。また、2. 3. として、英語圏への留学体験を聞いたところ、3名が「ある」と答え、その期間は2ヶ月～2年であった。

2. 1. 1. 小学校での英語教育

まず、小学校で英語を習ったかどうかに関しては、

- ・ 習った 16名
- ・ 習わなかった 19名
- ・ 無回答 1名

という結果であり、小学校時点から英語教育を受けている者の数が意外に多いという印象を受けた。「習った」という学生の出身国を挙げれば、

- ・ 中国 8名
- ・ 台湾 1名
- ・ マレーシア 3名
- ・ ロシア 1名
- ・ 韓国 2名
- ・ タイ 1名

となる。中国では、北京など都市部出身者が多く、地域による差の大きいことが改めてわかる。韓国や台湾の学生の回答は、公的な学校ではなく塾などでの学習を混同している可能性もあるが⁵⁾、初等教育時点から何らかの形で英語を学んできたという事実は間違いないであろう。

次に、「習った」と回答した学生からは、具体的な授業の様子などについて、以下のような回答を得た。(アンケート 3. 1. 1. ~ 3. 1. 5.)

Q 3. 1. 1. 重点はどこに置かれたか？(複数回答可)

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ・読むこと | 9 名 | ・聞くこと | 2 名 |
| ・話すこと | 4 名 | ・書くこと | 6 名 |

Q 3. 1. 2. 小学校での授業は、どんな感じだったか？(複数回答可)

- | | |
|--------------------|------|
| ・テキストを読むのが中心 | 13 名 |
| ・ゲームや歌などが中心 | 6 名 |
| ・先生と会話の練習をするのが中心 | 4 名 |
| ・先生の話聞くのが中心 | 4 名 |
| ・生徒同士で会話をしたりするのが中心 | 1 名 |
| ・その他 | 2 名 |

次に、英語の授業の時間数を訊いたが、おおむね 1 回 40 分~45 分で、週あたり 1~3 回程度である。少ないもので 40 分×1 回、多いもので 45 分×4 回あるいは 60 分×3 回という回答もあった。クラスサイズは、40 人前後が最も多く、ほとんどが 40~50 人の間であった。一方で、10 人という回答が 1 人、20 人という回答が 4 人あり、比較的小人数での恵まれた英語教育を早期から受けた者もいることがわかった。逆に、55 人、あるいは 58 人という答えもあった。英語の教師はどのようなタイプか、という質問(アンケート 3. 1. 5.) に対しては、

- | | |
|---------------------------------|------|
| ・英語を母語とする人で、英語を中心に教えている人 | 2 名 |
| ・自国の人(英語を母語としない人)で、英語を中心に教えている人 | 13 名 |
| ・自国の人で、いろいろな科目と共に英語を教えている人 | 1 名 |

という回答で、ネイティブスピーカーによる授業は少ない一方で、小学校といえども、ほとんどが「英語を中心に教えている人」、つまり英語専門の教師が教えているという事である。日本でも小学校への英語教育導入が議論されているが、「教える人」をどうするのであろうか。

2. 1. 2. 中学校での英語教育

中学校時点では、全回答者のうち 31 名が英語を「習った」と回答している。「習わなかった」のは 5 名、無回答（その後の質問に回答していないので、おそらく習わなかった）が 1 名であった。以下、具体的な授業の様子等について述べる。（アンケート 3. 2. 1. ～ 3. 2. 5.）

Q 3. 2. 1. 重点はどこに置かれたか？（複数回答可）

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ・読むこと | 27名 | ・聞くこと | 5名 |
| ・話すこと | 4名 | ・書くこと | 13名 |

Q 3. 2. 2. 中学校での授業は、どんな感じだったか？（複数回答可）

- | | |
|--------------------|-----|
| ・テキストを読むのが中心 | 28名 |
| ・先生の話聞くのが中心 | 17名 |
| ・先生と会話の練習をするのが中心 | 6名 |
| ・生徒同士で会話をしたりするのが中心 | 4名 |
| ・ゲームや歌などが中心 | 2名 |
| ・その他 | 4名 |

「その他」の内容として挙げられていたのは、「文法中心に」「文法や単語を重点に」「テキストを中心に読み、文法を覚えた」というような事である。上記の回答と合わせても、あまり会話の練習などは行なわれず、読み書きや文法中心の英語教育が、アジア諸国の中学校でも主流を占めていることがわかる。

週あたりの英語の時間数は、実に様々である(表4)。なお我が国では、しばらく「50分×3回」という状況が続いていたが、平成5年より4回の授業も可能となっている。次に、クラスサイズについては表5にまとめた。クラスサイズの問題は、上記で検討した授業方法とも密接に関連する。40人～50人というクラスサイズでは、会話中心の授業はなかなか困難であり、どうしても読解や文法中心の授業が主流になってしまうというのは、我が国とも共通する悩みであろうか。

表4 中学校の週あたりの英語授業時間

何分× 何回	人数	何分× 何回	人数
40分× 4～5回	1	50分× 4回	1
40 × 5	2	50 × 5	1
45 × 1	1	50 × 6	1
45 × 1～2	1	50 × 12 ⁶⁾	1
45 × 2	5	60 × 3	1
45 × 2～3	1	60 × 4	1
45 × 3	3	60 × 8	1
45 × 4	4	70 × 2	1
45 × 5	2	90 × 1	1
45 × 6	1	120 × 4	1

表5 中学校英語授業でのクラスサイズ

クラスの人数	回答者数	クラスの人数	回答者数
10～14	2	40～44	5
15～19	0	45～49	7
20～24	2	50～54	7
25～29	1	55～59	3
30～34	0	60～64	1
35～39	0	65～69	2
		無回答	1

英語の教師のタイプ(Q 3. 2. 5.)としては、

・英語を母語とする人で、英語を中心に教えている人

2名

・自国の人（英語を母語としない人）で、英語を中心に教えている人 29名
という、2通りの回答に絞られた。

2. 1. 3. 高等学校での英語教育

高等学校での英語の履修状況については、29名が「習った」と回答している。無回答者等についても、他の項目と比較検討した結果、中学校と同じく6名が、高等学校でも英語を履修しなかったと考えられる。以下、具体的なアンケートの結果を記述する。（アンケート 3. 3. 1. ～3. 3. 7.）

Q 3. 3. 1. 重点はどこに置かれたか？（複数回答可）

- | | | | |
|-------|-----|-------|----|
| ・読むこと | 22名 | ・聞くこと | 9名 |
| ・話すこと | 7名 | ・書くこと | 8名 |

Q 3. 3. 2. 高等学校での授業は、どんな感じだったか？（複数回答可）

（元のアナケートの項目を、回答の多い順に並べ替えた。）

- | | |
|---|-----|
| ク. 英語の文法などの説明も多かった | 22名 |
| オ. テキストを読み、自国の言葉に訳したり、自国語で説明
したりするのが中心 | 19名 |
| ケ. 問題練習などが中心 | 14名 |
| エ. 先生の話聞くのが中心 | 11名 |
| キ. テキストの大体の意味をつかむことが中心 | 9名 |
| ウ. 先生と会話の練習をするのが中心 | 6名 |
| カ. テキストを読み、英語で説明や議論をするのが中心 | 6名 |
| ア. ゲームや歌などが中心 | 2名 |
| イ. 生徒同士で会話をしたりするのが中心 | 1名 |
| コ. その他 | 2名 |

いわゆる 4 技能に関して言えば、「聞くこと」「話すこと」という回答が中学校を若干上回っている。しかし依然として「読むこと」という回答が圧倒的に多く、授業の様子に関しても、テキストを読み、自国語に訳したり解説したりという授業が中心で、文法の説明も盛んに行なわれていることが伺われる。更に、上級学校への進学という面も無視できないようであり、「問題練習などが中心」というのは、多分に進学を意識した授業ではないだろうか。「コ。その他」の具体的内容も、「大学に入るための／試験用の 勉強であった。」というものである。

次に、週あたりの授業時間及びクラスサイズに関する回答を、表にまとめる。

表 6 高等学校の週あたりの英語授業時間

何分× 何回	人数	何分× 何回	人数
40分× 4～5 回	1	50分× 4 回	3
45 × 1～2	1	50 × 5	1
45 × 2	4	50 × 6	2
45 × 3	3	50 × 8	1
45 × 4	2	60 × 4	2
45 × 5	3	60 × 8	1
45 × 6	1	90 × 4	1
50 × 3～4	1	105 × 3	1

表 7 高等学校英語授業でのクラスサイズ

クラスの人数	回答者数	クラスの人数	回答者数
10～14	1	40～44	3
15～19	0	45～49	6
20～24	2	50～54	9
25～29	0	55～59	2
30～34	1	60～64	4
35～39	0	65～69	0
		無回答	1

授業時間に関しては、やはり相当に幅があり、日本の現状と比較しても少ないという場合も、かなりある。クラスサイズは、45～55人程度が最も多く、決して恵まれた状況とは言えないようである。英語の教師のタイプとしても、「自国の人（英語を母語としない人）で、英語を中心に教えている人。」という回答がほとんどであり、「英語を母語とする人」という回答は1名のみであった。

高等学校時代に関しては、個々の留学生の英語学習に対する態度についても質問した。

Q 3. 3. 6. あなたは高校時代、英語が好きでしたか？

（〔 〕内は、参考として、小池生夫他（1990）の調査による、日本人大学生・短大生10,334名の回答のパーセンテージを記した。）

- | | | |
|----------------------|----|---------|
| ・最初からずっと好きだった | 8名 | 〔29.9%〕 |
| ・最初好きだったが、だんだん嫌いになった | 6名 | 〔16.7%〕 |
| ・途中から、だんだん好きになった | 2名 | 〔8.4%〕 |
| ・ずっと嫌いだった（苦手だった） | 7名 | 〔18.3%〕 |
| ・好きでも嫌いでもなかった | 5名 | 〔26.7%〕 |

Q 3. 3. 7. あなたは高校時代、授業時間以外に（予習・復習など）どのくらい英語を勉強しましたか？

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ほぼ毎日勉強した | 4名 |
| ・授業のあった日は、だいたい勉強した | 8名 |
| ・たまに（テストの前などに）勉強した | 10名 |
| ・（授業以外）ほとんど勉強しなかった | 6名 |

留学生の中にも、英語に興味を持ち、学習努力を継続してきているものは確実に存在する。日本の大学生の平均と比べると、やや苦手な者の比率が高い

- ・ テレビやラジオの番組などを利用して、自分で学んだ 7 名
- ・ 地元（自国）の人が中心に教える学校で学んだ 6 名
- ・ 家庭教師などの、個人指導で習った 5 名
- ・ 自分の親やまわりの人から、ふつうの生活の中で自然に学んだ 2 名
- ・ 英語を母語とする人が主に教える、英会話中心の学校で 1 名
- ・ その他（アメリカ留学／地元の大学の夜学で） 2 名

という回答である。「高校を卒業してから」英語を学んだものが多いというのは、職についてから再度学に志した者も多いという本学留学生の状況とも関連するであろう。また、どこの国の職場でも、英語が必要とされる場面が多いという事の表れかも知れない。

2. 1. 5. 留学生のこれまでの英語学習（まとめ）

本学アジア人留学生がこれまでに受けてきた英語教育については、その多様さが改めて際立つ中で、一定の傾向も見られた。彼らの受けてきた授業の多くは、クラスサイズやネイティブ・スピーカーの採用（活用）などの点では、日本と比較しても決して恵まれているとは言えない部分も多い。授業方法も、学校段階を問わず、テキストを読むこと（特に、自国語への訳読）を中心に、教師が自国語で説明する講義を（大人数クラスの）学生が聴いているというのが、基本的なあり方のようなのである。実際に英語を使っの会話中心の授業は、決して多数派ではない。

一方で、アジアの幾つかの国では、初等教育時より何らかの形で英語教育を導入し、学校教育のかなりの時間を割いて、英語に熱心に取り組んでいる様子が伺われる。英語の必要性に対する社会的な認識も高く、学校での教育が必ずしも理想的とは言えない中でも、何らかの方法で自ら英語を学んできた学生の割合は高い。しかしながら、学生個々に視点を移せば、必要性は十分に認識しつつも、英語学習の「困難さ」や「苦勞」についても痛感してい

る者も多く、英語学習に対するニーズなども非常に多様で切実であることが想像される。次章では、留学生の英語技能の自己診断と、彼らがどのような能力を身につけたいと考えているかについて検討する。

2. 2. 英語技能の自己診断と英語学習のニーズ（現状分析）

これまで観てきたような背景を持つ留学生は、自らの英語力について、どのように評価しているであろうか。まず、アンケート 4. 1. の回答を提示したい。

表8 Q 4. 1. あなたの現在の英語力について、それぞれどう思いますか？

	十分できる ／十分ある	まあまあで きる／ある	あまり（で き）ない	全く（でき） ない
聞くこと	1	9	16	10
話すこと	0	4	22	9
読むこと	1	16	15	4
書くこと	0	9	21	6
英語そのものの知識	1	10	20	5
文化・習慣の知識	1	15	13	6

これら6項目の中で、「読むこと」及び「(英語圏の) 文化・習慣の知識」に対しては、比較的高く評価している者が多いが、それ以外の項目については否定的な評価が多い。特に「話すこと」「聞くこと」については、自らに対する評価は低い。

これは、既に述べたような、彼らが受けてきた英語教育の実態と密接に関連があろう。大人数での読解中心の授業で、テキストの内容もおそらくは英米の文化的な題材が多かったとすれば、上記のような回答になるのがむしろ自然であろう。これは、多くの日本人が自らの英語力に対し、あるいはその背景である英語教育に対して抱く、「読むことはある程度できるけれども、全然話せないし、聞けない」という不満とも一致するものである。

ところで、「読むことはある程度できる」と考えている日本人の、英語の読解力はどのようなものであろうか。特に専門的でない、一般向けの雑誌や大衆紙を、ある程度の速度で読めるだろうか。文章を行きつ戻りつ少しずつ目で追い、未知語のところでその都度立ち止まるような読解力では、コンピュータ・ネットワークなどが発達し、英語での大量の情報を処理する必要に迫られたような場合に、対応できるのであろうか。留学生たちが「読むこと」にある程度の自信を示すのも、それまでの授業が読解中心であったというだけの意味でないことを願いたい。

次に、留学生が英語のどのような能力を重要と考え、身につけたいと願っているかに関し、具体的な項目を挙げて訊いた。より重要と考えられているものから順に⁷⁾、以下に列挙する。(アンケート 4. 2.)

ポイント⁸⁾

- ・ インターネット上の英語の情報を、効果的に読み、利用できる 57
- ・ 海外に行ったとき、(食事や買い物などの) 日常的なことができる 49
- ・ 英語で自分の考えや気持ちを伝える 47
- ・ 英語で(個人的な) 手紙や電子メールが書ける 46
- ・ 英語での、(大学などの) 専門的な講義・議論などを聞いて理解できる 41
- ・ 英語の本や雑誌、新聞などが読める 40
- ・ 英語のビジネスレターやファックス、書類などを読んだり書いたりできる 40
- ・ 英語の論文などを速く効果的に読んだり、レポートや論文を英語で書く 38
- ・ 英語で礼儀正しい会話ができる 36
- ・ 英語の映画やテレビ番組、歌などが理解できる 35
- ・ 英語を使う国や地域についての、文化的・背景的知識などを身につける 29

いずれの項目も「大切である」という回答が目立つ中で、1つの傾向として浮かび上がるのは、インターネットなどの発達した高度情報化社会に対応する英語力、そして、日常生活あるいはビジネス・学業の上で実用的に使える英語力という事であろう。このようなニーズは、日本人大学生の英語学習に対するニーズとも共通する部分が多い⁹⁾。一方で、日本人学生の傾向とやや異なる特徴としては、本稿で論じている留学生の方が、文化的・教養娯楽的な関心が低く、学問的あるいは（ビジネスなど）専門的な英語能力に対する関心が高いことが挙げられよう。

2. 3. 大学の英語教育について

アンケート調査の最後に、現在の大学での英語学習の状況や、大学に対する希望などを書く項目を設けた。（アンケート 5. 1～5. 2. 4.）

まず、大学での英語学習の現状と問題点についての質問に対しては、次のような回答を得た。

Q 5. 1. あなたが大学で英語を勉強しようとするとき、次のような問題点
はありますか？（複数回等可）

- | | |
|--|-----|
| ア. 英語も重要だが、専門の勉強などが忙しく、英語を勉強
する余裕がない | 14名 |
| イ. 英語を勉強したいが、大学の英語の授業は難しくて、自
分には向いていない | 15名 |
| ウ. 英語を勉強したいが、大学の授業は簡単過ぎて、自分に
は向いていない | 1名 |
| エ. 英語を勉強したいが、大学には自分の希望するような英
語の授業が（あまり）ない | 16名 |

半数近くの留学生が、現在の大学の英語の授業が「難し過ぎる」と答え、

「自分の希望するような授業が（あまり）ない」という回答と合わせると、のべ 31 名が、現在の授業に何らかの違和感を抱いている事になる。

それでは、彼らはどのような授業を望んでいるのだろうか。上記に「エ。」と回答した学生には、自由記述で「どのような授業を希望しますか」という質問項目を設けたが、それに対し 12 名が回答を寄せてくれた。それらは大きく次の 3 通りに分類される。

1 つには、「聞くこと、書く事を中心にして欲しい。英会話もやりたい。」「外国人の先生の授業がとりたい。」「大学で英語を勉強するのは、文法だけでなく、会話や聞き取りも大切にして欲しい。」等のように、会話中心の授業を望む声で、この 3 つを含め、5 名の回答がこの分類に含まれる。

次に、やや対照的であるが、文法や読解をもっと重視して欲しいというもので、3 名がこの様な回答をしている。具体的な内容としては、「会話や聞き取りの練習だけでなく、ある程度の文法の時間も必要だと思う。」「ちゃんとテキストを使って、単語の意味や文法の用法など、授業の中で、文章を読めるように教えてもらいたいです。」「英語で文章を書くことと、文法を勉強する事を続けて学びたい。」などである。外国語を学んだ経験の豊富な留学生は、文法の大切さも痛感しているのであろうか。

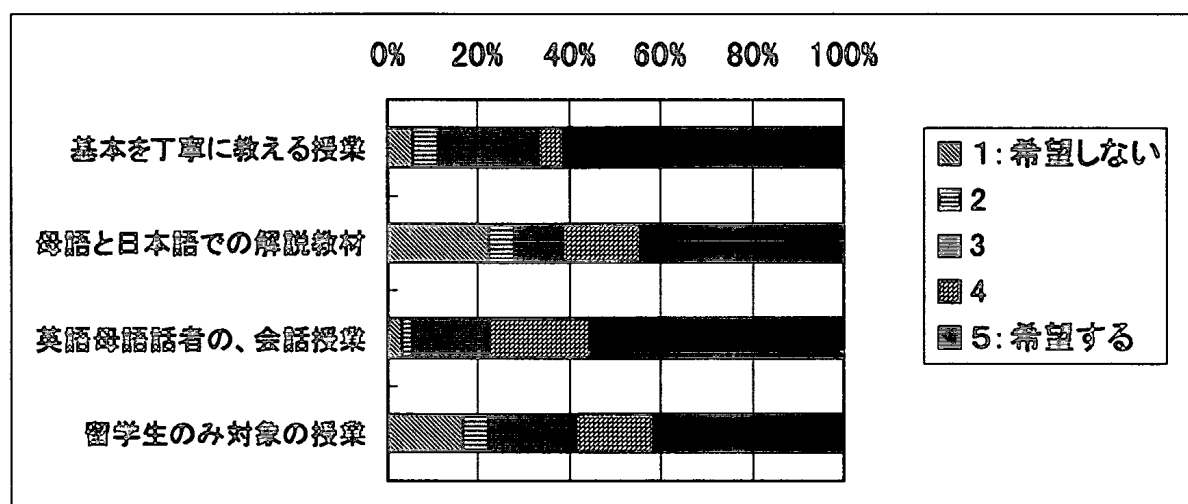
そして 3 つめは、英語の基礎・基本を（丁寧に）教えて欲しいという声である。「初めて学ぶ人を高めるような授業」「英語を最初から教える授業」という、2 名の回答があった。その他、「ただテキストを読んで訳したりあるいは単語を覚えてペーパーテストでパスするための教育であると思う。」という批判や、「母国語のテキストで勉強したい。」というものがあつた。

アンケートの 5. 2. では、「もし可能であれば、大学に対して次のような授業などを希望しますか。」として、具体的な項目を提示し、回答を求めた。（次のページのグラフを参照。）

やはり、「基本を丁寧に教える授業」に対する希望が多く、初歩的な学習で躓いている学生の切実さが伺われる。「英語母語話者の会話授業」という希望

も多い。「母語と日本語での解説教材」に関しては、「希望しない」という声も比較的多いが、ある程度英語の基礎ができている学生の答えであろう。「留学生のみを対象にした授業」というのは、しかしながら、かなりの部分が「基本をしっかり教えて欲しい」という希望と重なると思われる。この項目に対して、「留学生といっても皆のレベルが様々なので意味がない。」というコメントを寄せた学生がいたが、考慮すべき意見ではないだろうか。

Q もし可能であれば、次のような授業などを希望しますか？



その他、授業に限らず「英語を勉強する上で思う事、または、大学に対して希望する事」などを、自由に記述してもらった欄を最後に設けた。それに対し、21名もの学生がコメントを寄せてくれた。授業に関連する内容としては、上述の事柄と重複するが、改めて基本を教える授業を切望する声や、会話重視の授業を求める声も多かった。「もっと中学や高校でしっかり（英語を）勉強すれば良かった」というものや、英語学習の苦勞を訴えるものもあった。この項目で初めて現れた声として、「発音をしっかり勉強したい」というものが2名あった。更に、「英米への1年程度の留学に、自分たち（留学生）も参加させて欲しい」「この大学には、英米からの学生があまりいません。できれば（自分が英語を練習するために）アメリカやヨーロッパからの留学生をど

んどん受け入れてください」のように、キャンパス自体の一層の国際化を求めるものもあった。全くの自由記述なので、現実すぐに反映させられない部分もあるが、約6割の回答者が複数行にわたる回答を寄せていること自体、英語学習が多くの留学生にとって重要な関心事であることを伺わせる。

3. 英語教育の改善に向けて—— 幾つかの提言 ——

ここまでアンケートを中心に観てきた、留学生の多様な背景や現状・希望を踏まえ、どのような改善の方向が考えられるだろうか。留学生に対する英語教育ばかりでなく、日本人学生も含めた、札幌大学全体の英語教育の改善も視野に入れつつ、幾つかの方向性及びその問題点について考察したい。

3. 1. 授業の多様化

授業の多様化として、大きく次の2点を考えたい。1つは、アンケートを通して最も切実な問題として浮かび上がった、英語初学者の問題、あるいは、基本・基礎を丁寧に教える授業の可能性である。

ところで、英語の基礎学力の不足や、基礎から改めて学びたいという希望は、留学生だけの問題であろうか。我が国全体として、大学生の基礎学力の問題が様々に議論されているが、殊に英語の学力に関しては、国公立・私立、あるいは専攻分野を問わず、様々な大学でその低下を嘆く声が聞こえている。今後ますます入学者の学力の多様化が予想される本学にあっても、日本人学生の英語の基礎学力の差も今まで以上に広がり、何らかの対応を考える必要が生じて来ると思われる。一方で、留学生のみを対象とする英語の授業が、どれほどの効果を持つかも検討する必要があるだろう。その母語も様々であり、英語のレベルにも相当に差のある留学生だけを対象として英語の授業を行なうことが、実現性・有効性のある方策とはあまり考えられない。日本語で基礎をじっくり解説・指導する授業となれば、日本人学生にとってもその必要

性は同じように高いと思われる。従って、基礎的事項を指導する授業を考える場合、日本人学生の履修も同等に考えた上で、議論を進めたい。

具体的な授業展開としては、2つの方策が考えられよう。1つは、いわゆる習熟度別クラス展開である。現に文化学部ではこの方向での授業展開が行なわれており、成果を挙げつつある。一般的に、習熟度別クラス展開を更に進める場合、次のような点を考慮する必要があるだろう。

1. クラス分けの方法
2. 時間割編成の問題
3. 評価の問題
4. スタッフ間の調整

クラス分けに関しては、学生自らの希望で分けるか、最初にプレースメントテストなどを行い、ある程度機械的に分けるかの問題がある。更に、自己申告の場合、真に基礎からの学習を希望する学生と、あまり英語学習に積極的でなく、できるだけ学習負担の少ないクラスで単位を修得しようとする学生をいかに区別するかという問題もある¹⁰⁾。評価の問題も、これと密接に関連する。非常勤講師に依存している割合も決して低くはない現状の中で、いかに相互の連携を取りながら効果的な習熟度別授業展開が可能か、その是非も含めて、検討する必要があるだろう。

もう1つの方策は、補習授業の可能性である。学生の英語力の現状を見れば、正規の授業時間だけで、極めて基礎的なレベルから大きく英語力を伸ばすことは、相当に困難である。では、その不足分を、別の時間に教室に学生を定期的に集めて指導することが、果たして現実的であろうか。

アンケート 5. 1. にあるように、多くの学生のカリキュラムにはあまり余裕はなく、時間割上に補習の時間を正規に設けることは、かなりの困難が予想される¹¹⁾。仮にどこかに時間を設けても、課外の補習としてのその様な授業が長続きするかどうかは疑問である。

より現実的な方策としては、「補習授業」として定期的な時間を設け、講義

を行なうよりも、基礎的事項を学習したい学生に対し、定期的なアドバイスを与えるという方法である。ある程度の主体性を持って、英語の基礎学力を伸ばしたいと願う学生に対し、個々の状況に応じて、教材や学習方法でのアドバイスを与え、あるいは具体的な質問に答えるという方法が、より現実的で効果も上がると思われる。教員は、オフィス・アワーのような時間を設け、これに充てれば良い。

授業の多様化の方向として検討すべきもう1つの課題は、ネイティブ・スピーカーの講師による授業の充実である。これも、単に「英会話」の授業を増やすというだけではなく、より専門性の高い内容も含めて、英語での授業を設けるという方向が必要であろう。アンケートからも、留学生はビジネス英語などの専門的・技術的な英語力、あるいは英米への留学なども視野に入れた英語力への関心も高い。本学キャンパスのますますの国際化のためにも、様々な専門科目も含めた英語での授業を、今後検討する必要があるだろう。

更に、昨今の多様化した学生の状況やニーズに応えるには、大学として組織的に以下のような方策も検討する必要があると思われる。

3. 2. 施設・設備の充実

情報化時代の急速な進展の中で、本学でも情報関係施設の充実ぶりには目を見張るものがある。インターネット上には、英語の情報が溢れ、英語学習自体のための資源も豊富に存在し、これらは学習者の有力な素材となり得る。アンケートでも、「インターネット上の情報を、効果的に読み、利用できる」ための英語力への関心が、最も高かった。それでは、現状のインターネット環境を与えていれば、学生の英語力は自然に向上するのであろうか。

インターネット上の英語情報の多くはいわゆる‘authentic’なもので、つまり英語母語話者のレベルに近いものが情報を得るためのものである。ある程度の基礎力のある学生にとっては、恰好の学習資源となり得るが、果たしてそのレベルの英語力と学習意欲を持つ学生が、留学生・日本人を問わず、ど

の程度存在するであろうか。

更に言えば、インターネットに限らず、今日の日本社会には、英語学習のための素材が溢れている。英語の映画やテレビの2カ国語放送、英字新聞・雑誌など、枚挙に暇がない。それでは、これら素材の充実が、例えば日本人の英語力の向上に、そのまま結びついているであろうか。素材の提供だけでは、学習には結びつかないのではないだろうか。

昨今の情報技術の進展の中で、教育面での有効な1つの方策として、多様なレベルの英語力を持つ学生に対し、各自のペースで学習を進めるためのCALL (Computer Assisted Language Learning: コンピュータを援用した語学学習) の導入が考えられる。もちろんこれも、機械を導入すれば良いというものではなく、適切なコースウェア(ソフト)¹²⁾を備え、教員の適切な指導と、学生の立場に立った管理運営が行なわれて、初めて学習効果に結びつくものである¹³⁾。

語学学習には、ややもすれば単調とも思えるトレーニングの繰り返しや、膨大な学習時間がどうしても必要である。また、昨今の学生の現実を見れば、その様な基礎的訓練こそが、大きく欠如している場合が多い。機械的に行なって効果の期待できる部分は、機械を活用して、学生が各自のレベルに応じ、あるいは都合の良い時間に合わせて訓練が行なわれる環境が、必要なのではないだろうか。

3. 3. 自習教材の充実

今回のプロジェクト¹⁴⁾を始めた動機の1つとして、中国語圏出身留学生の中の、英語初学者の存在があった。彼らに対し、外国語である日本語を通して英語を学習させる非効率さを何とか改善したいという事である。そのための可能な方策として、日本語・中国語で解説した基礎教材を試作した¹⁵⁾。そのサンプルについては、資料2に掲載した。

実際の作成にあたり、留学生の意見を聞きながら作業を進めたが、具体的

な解説部分は、平易な日本語のみで十分であるとの事であった。ただ、教材中の英語の例文については、中国語訳を付した。これらの教材を、実際に留学生に利用してもらい、更に意見を聞きながら改善・充実させることが、当面の課題である。

更に、中国語圏からの留学生の便宜のために、中華民国において出版されている、次のような音声教材付きの初級英語参考書を入手した。

- ・活学活用 生活英語 入門篇 (台湾英文雑誌社)
- ・用国中英語和老外聊天 初級1 (三思社)
- ・用国中英語和老外聊天 初級2 (三思社)

いずれも、中学校から高校初級程度の内容を易しく解説した参考書であり、あまり膨大な内容は含まず、体裁も見やすくできている。これらを、留学生が集まりやすい国際交流センターなどに常備し、必要な時に必要な学生が利用できるようにすることも、1つの方策であろう。将来的には、韓国語やその他の言語で解説された参考書を用意することも考えられよう。

4. お わ り に

留学生に対する英語教育の改善というテーマで、彼らの背景やニーズの調査を始め、様々な改善策について考察してきた。英語教育の改善という点では、しかしながら、留学生のみを対象に行なえること、あるいは、行なうべきことよりも、日本人学生も含めて、札幌大学全体の英語教育改善という枠の中で考えるべきことが、遥かに大きいというのが、正直な感想である。

これはしかし、これまで観てきた留学生たちの切実な声を無視しても構わないということではない。英語の必要性を日本人と同等以上に痛感し、かつその難しさも感じている彼らに対し、少しでも応えることが、彼らを受け入れた大学の使命でもある。教材面での支援からカリキュラムや施設設備の見直しまで、課題は山積している。本論が少しでもきっかけとなって、様々な

場面で改善のための議論が持ちあがることを、切に希望する。また、本論に対しての読者諸賢の批判等、大いに歓迎したい。

なお、アンケート調査にあたっては、経営学部佐藤不二子先生、文化学部山橋幸子先生始め、日本語教育の諸先生方、並びに国際交流センターの職員の方々に、御協力をお願いした。また、後述英語教材の中国語訳その他については、経営学部産業情報学科、林岳毅君の協力を得た。ここに記し、感謝の意を表したい。

(注)

- 1) 本論は、平成 10 年度札幌大学研究助成（共同研究）「中国語解説付きの英語教材の収集と研究」プロジェクト及び、平成 10 年度研究室委員会より補助を受けた、学内研究会「札幌大学アジア留学生に対する英語教育研究会」の活動報告の一部である。
- 2) 文部省（1996）でも、中国については「広大な国土と膨大な人口を抱え、各地方の経済、社会、文化的状況が異なることから、制度の画一的施行を求めることはせず、各地方の実情に合った弾力的な運用を認めている。特に最近はこの傾向が強い。教育制度においても、このような事情から中央政府が原則的な制度を定めているが、地方によりこれとは若干異なる制度を施行し、事情が必ずしも同じではない場合が少なくない。」と解説している。本調査においても、例えば、内モンゴル自治区呼和浩特の出身者（6 名）については、原則的に学校教育においては英語を学習してきていないことが確認された。
- 3) 標準語と考えられる「普通話」以外の中国語（方言）を母語とするものについても、一律この項目に含めた。
- 4) 具体的には、広東や重慶の方言を母語とする者が普通話も使えるという場合や、北京語を母語とするが台語（台湾方言）も使える、というような場合である。
- 5) 台湾では、「集団活動」などの時間を使った一部の学校での取り組み以外、公教育としての小学校での英語教育は行われていないが、英語教育への関心は高く、小学生のうちから塾や語学学校等で英語を学んでいる例は非常に多い（鶴浦・尾田，1998）。韓国における小学校の英語教育について、大谷（1997）には、

日本では、根強い反対のある小学校の外国語教育も、韓国ではすでに 1981 年から、英語を課外科目として小学校に導入済みである。その後 16 年間の準備期間を経て、本年度（1997 年度）から英語は小学校の正課となった。

とある。ここで「習った」と回答した韓国出身者は、小学校の「課外科目」としての英語の授業を受けた可能性が高が、塾や語学学校等で学んだという可能性もあろう。

- 6) この回答に関しては、アンケートの後の部分を検討した結果、公的な学校教育の時間と、学校以外で私的に学んだ時間を合計して答えている可能性が高いと考えられる。
- 7) アンケートでは、各項目について、どのくらい重視するかを1～5の段階で回答するようにした。
- 8) 1～5の段階で得られた回答のうち、「3」の回答を0と考え、「5」を+2、「1」を-2と考え、それぞれに回答人数を掛け合せて、その数値の総和を「ポイント」とした。
- 9) 例えば、北海道内の約5,000名の大学生・短大生を対象に行なわれたニーズ調査(堀内他, 1995)によれば、卒業までに身につけたい英語の能力としては「海外に行ったとき、英語のさまざまな日常状況に対処すること」「英語で自分自身の考えや感情について話すこと」などに代表されるように、コミュニケーションのための英語の習得に対する関心が最も高い。一方で同調査によれば、道内大学生は、学問的・専門技術的英語能力の習得に対する関心は低く、「英語の映画やテレビ・ラジオ番組、歌などを理解する」「英語の雑誌、新聞など読む」といった教養娯楽的ニーズが、先に述べたコミュニケーションのための英語のニーズに次いで高い。
- 10) この点に関して、東京都のある大学では、「英語基礎クラス」として、同じ単位数で倍の時間の授業を行ない、基礎から丁寧に指導するクラスを設け、希望者に履修させている。真に基礎からやり直したいと願っている学生にとっては、有効な制度かも知れない。
- 11) 今回、留学生の英語学習の背景やニーズを調べるにあたって、当初はアンケートではなく、座談会のような形式を考え、そこで彼らの生の声を聞こうと計画した。ところが、実際に時間設定を考えた場合、学科や学年によって集まれる時間が全く揃わず、時間設定が不可能であった。結果的に今回は、アンケートの方が多くの情報が集まったと思われるが、補習授業の開講などでは、やはり相当の困難が予想される。
- 12) 従来のドリル・チュートリアル型のソフトに加え、昨今ではマルチメディア技術を活用した様々なソフトウェアがある。札幌学院大学で1997年度に導入されたCALL教室では、リスニングに重点を置いたコースウェアを利用しているが、読解や文法など多様な訓練を有機的に絡め、極めて基礎的なところから高度な部分まで対応し、CD-ROMにして24枚分にも相当する内容で、極めて充実したものである。その他、会話や読解、聞き取り、文法など、特定の技能に重点を置くものや、TOEFL, TOEIC, 英

検などの資格試験を目指したものなど、多様なコースウェアが存在する。

13) 例えば上記札幌学院大学では、CALL 教室は、午前中の時間帯はほとんど全て授業で活用し、午後は一切授業を入れず、学生の自習用に開放している。CALL の授業を履修していない学生も含めて、数百名が利用登録し、自習時間はほとんどいつも満員の盛況らしい。

14) 注 1) 参照。

15) アンケートでも、6 割以上の学生がこの様な教材を「希望する」と回答している。

(参考文献)

Hayasaka, K. et al., 'Not in Kansas any more: Japanese university students' EFL needs' TESOL '96 March 28, 1996 Chicago, Illinois

Ueno, Yukie, 'Survey of HGU Students' English Background' 北海学園大学学園論集第 75 号 (1993)

Yonesaka, Suzanne, 'An Analysis of First-Year Students' Perceptions of Their EFL Needs' 北海学園大学人文論集第 2 号 (1994)

堀内真智子他, 『北海道における大学英語教育のニーズ分析』 平成 5 年度北海道科学研究事業研究成果報告書 静修学園 (1994)

小池生夫他, 『わが国の英語教育に関する実態と将来像の総合的研究』 文部省科学研究費補助金研究 (慶応義塾大学) 英語教育実態研究会 (1990)

小池生夫他, 『職業人から見た英語教育に関する実態と将来像の総合的研究』 文部省科学研究費補助金研究 (慶応義塾大学) 英語教育実態調査研究会 (1990)

上野之江, 「商大生の英語学習に関するアンケート調査」 小樽商科大学 『人文研究』 第 83 輯 (1992)

早坂慶子, 「北海道における大学英語教育のニーズ分析——北星学園大学の場合——」 北星学園大学文学部北星論集第 32 号 (1995)

吉田翠, 「短期大学一年生の英語教育に対するニーズ分析」 専修大学北海道短期大学環境科学研究所紀要 (1995)

大谷泰照, 「韓国の外国語教育事情」 大修館『英語教育』 Vol. 46, No. 9 (1997)

竹内慶子他 (編訳), 『世界 25ヶ国の外国語教育』 大修館『英語教育』 別冊 (1999)

文部省編, 『諸外国の学校教育 (アジア・オセアニア・アフリカ編)』 (1996)

竹蓋幸生, 『英語教育の科学』 アルク (1997)

鶴浦裕・尾田智彦, 「国立台湾師範大学附属高級中学における二カ国語使用英語教育」

〔資料 1 留学生へのアンケート〕

札幌大学留学生の皆さんへ

文化学部 鶴浦 裕

経営学部 尾田智彦

英語学習に関するアンケート

このアンケートは、札大で英語を教えている私たちが、これからの札大での英語教育について考えるための基礎的な資料にするものです。皆さんのこれまでの経験や考えを、教えてください。

なお、このアンケートは「基礎的な調査」という目的以外には使いませんし、皆さんのプライバシー（個人的なこと：例えば、誰がどのように回答したか、など）は、公表しません。また、英語・日本語その他、授業の成績などには一切関係しません。ですから正直に答えてください。なお、回答してくれた人には、後日、お礼（図書券）をさしあげます。

回答方法：質問をよく読んで、「ア．イ．ウ．…」から選ぶようなところでは、当てはまるものに○をつけてください。また、____（下線部）には、自分のことばで書いてください。（自分に関係のないことは、回答しなくてよいところもあります。）

回答し終わったら、尾田 研究室（6 号館 6 階 6608 室）の封筒に入れてください。回答者には、後ほど図書券をさしあげます。

質 問

1. あなた自身について

学部・学科 _____ 学年 _____ 年 氏名 _____

※氏名については、後日図書券を渡すときの参考にするだけです。

出身国 _____ 地域・地方 _____ 市・町など _____

あなたの母語（生まれてから最初に覚えて、いちばんよく使ってきたことば）は何ですか？

_____ 語

あなたは、母語のほかに、どんな言葉が使えますか？

2. 日本に来る前のこと

2. 1. 日本に来る前の故国の生活で、あなたはどのくらい英語を使っていましたか
ア. 自分の家でも、職場や学校でも（よく／ときどき）英語を使っていた
イ. 家では使わないが、職場や学校では（よく／ときどき）英語を使った
ウ. ふだんは使わないが、たまに英語を使う機会があった
=> 具体的にどんな機会か、教えてください
-

エ. 英語を使う機会は、ほとんどなかった

2. 2. 今の日本での生活と比べて、英語に触れる(英語を使う)機会は多かったですか
ア. 日本よりも多かった
イ. 今（日本での生活）と同じくらいだった
ウ. 日本よりも少なかった
2. 3. あなたは、英語がおもに使われている国（アメリカ、オーストラリアなど）で生活したことがありますか。あるとすれば、どこで、どのくらいの期間ですか。
ア. ある => どこで? _____ 期間は _____ ヶ月・年(○を)
イ. ない

3. これまでの英語学習について

3. 1. あなたは小学校で英語を習いましたか。習ったとしたら、何年生からですか。
ア. 習った => _____ 年生から イ. 習わなかった
3. 1. 1. (「ア. 習った」と答えた人のみ回答) 重点はどこにおかれましたか
ア. 読むこと イ. 聞くこと ウ. 話すこと エ. 書くこと
3. 1. 2. 小学校での授業は、どんな感じでしたか。(2つ以上○をつけてもよい。)
ア. ゲームや歌などが中心
イ. 生徒どうしで会話をしたりするのが中心
ウ. 先生と会話の練習をするのが中心
エ. 先生の話聞くのが中心
オ. テキストを読むのが中心

カ. その他 (もしあれば, 具体的に書いてください)

-
3. 1. 3. 英語の授業は, 1 回にどのくらいの時間 (何分) で, 週に何回くらいありましたか。

_____分で, 週に_____回くらい

3. 1. 4. 授業の時のクラスの人気は, どのくらいでしたか

_____人くらい

3. 1. 5. 英語の授業の先生は, おもにどのタイプの人でしたか

ア. 英語を母語とする人で, 英語を中心に教えている人

イ. 自国の人 (英語を母語としない人) で, 英語を中心に教えている人

ウ. 自国の人で, いろいろな科目と共に英語を教えている人

エ. その他 (もしあれば, 具体的に)

3. 2. あなたは中学校で英語を習いましたか。

ア. 習った イ. 習わなかった

3. 2. 1. (「ア. 習った」と答えた人のみ回答) 重点はどこにおかれましてか

ア. 読むこと イ. 聞くこと ウ. 話すこと エ. 書くこと

3. 2. 2. 中学校の授業は, どんな感じでしたか。(2つ以上○をつけてもよい。)

ア. ゲームや歌などが中心

イ. 生徒どうして会話をしたりするのが中心

ウ. 先生と会話の練習をするのが中心

エ. 先生の話聞くのが中心

オ. テキストを読むのが中心

カ. その他 (もしあれば, 具体的に書いてください)

-
3. 2. 3. 英語の授業は, 1 回にどのくらいの時間 (何分) で, 週に何回くらいありましたか。

_____分で, 週に_____回くらい

3. 2. 4. 授業の時のクラスの人気は, どのくらいでしたか

_____人くらい

3. 2. 5. 英語の授業の先生は, おもにどのタイプの人でしたか

ア. 英語を母語とする人で, 英語を中心に教えている人

イ. 自国の人 (英語を母語としない人) で, 英語を中心に教えている人

- ウ. 自国の人で、いろいろな科目と共に英語を教えている人
エ. その他（もしあれば、具体的に）

3. 3. あなたは高等学校で英語を習いましたか。

- ア. 習った イ. 習わなかった

3. 3. 1. (「ア. 習った」と答えた人のみ回答) 重点はどこにおかれましたか

- ア. 読むこと イ. 聞くこと ウ. 話すこと エ. 書くこと

3. 3. 2. 高校の授業は、どんな感じでしたか。(2つ以上○をつけてもよい。)

- ア. ゲームや歌などが中心
イ. 生徒どうして会話をしたりするのが中心
ウ. 先生と会話の練習をするのが中心
エ. 先生の話聞くのが中心
オ. テキストを読み、自国の言葉に訳したり、自国語で説明したりするのが中心
カ. テキストを読み、英語で説明や議論(話しあい)をするのが中心
キ. テキストの大体の意味をつかむことが中心
ク. 英語の文法などの説明も多かった
ケ. 問題練習などが中心
カ. その他（もしあれば、具体的に書いてください）

3. 3. 3. 英語の授業は、1回にどのくらいの時間(何分)で、週に何回くらいありましたか。

_____分で、週に_____回くらい

3. 3. 4. 授業の時のクラスの人数は、どのくらいでしたか。

_____人くらい

3. 3. 5. 英語の授業の先生は、おもにどのタイプの人でしたか。

- ア. 英語を母語とする人で、英語を中心に教えている人
イ. 自国の人(英語を母語としない人)で、英語を中心に教えている人
ウ. 自国の人で、いろいろな科目と共に英語を教えている人
エ. その他（もしあれば、具体的に）

3. 3. 6. あなたは高校時代、英語が好きでしたか。

- ア. 最初からずっと好きだった
イ. 最初好きだったが、だんだん嫌いになった
ウ. とちゅうから、だんだん好きになった
エ. ずっと嫌いだった (苦手だった)
オ. 好きでも嫌いでもなかった
3. 3. 7. あなたは高校時代、授業時間以外に (予習・復習など) どのくらい英語を勉強しましたか
ア. ほぼ毎日勉強した
イ. 授業のあった日は、だいたい勉強した
ウ. たまに (テストの前などに) 勉強した
エ. (授業以外) ほとんど勉強しなかった
3. 4. あなたは、学校 (小学校・中学校・高校など) 以外で英語を習った (勉強した) ことがありますか。
ア. ある イ. ない
3. 4. 1. (「ア. ある」と答えた人のみ回答) それは、いつごろのことですか (2つ以上答えてもよい)
ア. 小学校に入る前
イ. 小学校のころ
ウ. 中学校のころ
エ. 高校のころ
オ. 高校を卒業してから、あるいは仕事についてから
3. 4. 2. 具体的にどのようなところ (あるいは、どんな方法) で学びましたか
ア. 自分の親やまわりの人から、ふつうの生活の中で、(自然に) 学んだ
イ. 英語を母語とする人がおもに教える、英会話中心の学校で学んだ
ウ. 地元 (自国) の人が中心に教える学校で学んだ
エ. 家庭教師などの、個人指導で習った
オ. 大学 (進学) や留学のための、進学や受験の準備を中心にした学校で学んだ
カ. 教会などで習った
キ. テレビやラジオの番組などを利用して、自分で学んだ
ク. 本 (参考書やテキストなど) を利用して、自分で学んだ

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 6. 英語で礼儀正しい会話ができる

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 7. 英語での、(大学などの) 専門的な講義・議論などを聞いて、理解できる

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 8. 英語の論文などを速く効果的に読んだり、レポートや論文を英語で書く

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 9. 英語で自分の考えや気持ちを伝える

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 10. 英語のビジネスレターやファックス、書類などを読んだり書いたりできる

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

4. 2. 11. インターネット上の英語の情報を、効果的に読み、利用できる

大切でない <= 1 2 3 4 5 => 大切である

5. 大学での英語教育について

5. 1. あなたが、大学で英語を勉強しようとするとき、次のような問題点がありますか。当てはまるものがあれば、いくつでも○をつけてください。

ア. 英語も重要だが、専門などの勉強などがいそがしく、英語を勉強する余裕がない。

イ. 英語を勉強したいが、大学の英語の授業はむずかしくて、自分にはむいていない。

ウ. 英語を勉強したいが、大学の授業は簡単過ぎて、自分にはむいていない。

エ. 英語を勉強したいが、大学には自分の希望するような授業が(あまり)ない。

(「エ。」と答えた人は) どのような授業を希望しますか。(具体的に)

5. 2. もし可能であれば、大学に対して、次のような授業などを希望しますか。

5. 2. 1. 英語のもっと基本的なことを、ていねいに教える授業。

希望しない <= 1 2 3 4 5 => 希望する

5. 2. 2. 基本的なことを、自分の母語(例えば中国語や韓国語など)と日本語で解説した教材を用意すること。

希望しない <= 1 2 3 4 5 => 希望する

5. 2. 3. 英語の母語話者による, 会話中心の授業。

希望しない <= 1 2 3 4 5 => 希望する

5. 2. 4. 留学生のみを対象にした, 英語の授業。

希望しない <= 1 2 3 4 5 => 希望する

そのほか, 自分が英語を勉強する上で思うこと, または, 大学に対して希望することなど, ありましたら, 自由に書いてください。

〔資料 2〕 日本語・中国語解説基本教材サンプル

日本語・中国語解説 英語基本教材 (§ 1) 文の種類

〔要点解説〕

英語の文には、平叙文（肯定文・否定文）の他に、疑問文、命令文、感嘆文がある。

〔例文〕

1. The students go to school by train. 〔平叙文・肯定文〕
學生搭火車上學。
2. The students do not [don't] go to school on Sundays. 〔平叙文・否定文〕
學生星期日不上學。
3. Where did he go yesterday? 〔疑問文〕
他昨天去哪裡了？
4. Come to my office at two tomorrow. 〔命令文〕
明天兩點到我的辦公室來。
5. Don't speak loud in the library. 〔命令文〕
別在圖書館裡大聲喧嘩。
6. How kind your sister is! 〔感嘆文〕
你的姊姊是多麼的親切啊！
7. What a beautiful day it is! 〔感嘆文〕
今天是多麼美好的一天啊！

〔整理〕

a) 否定文の作り方

- ① be 動詞 (am, are, is, was, were) の場合； be 動詞 + not

He is not [isn't] a good student.

他不是個好學生。

- ② 一般動詞の場合； do [does, did] + not + 動詞の原形

I do not [don't] like "sushi".

我不喜歡壽司。

- ③ 助動詞 (can, will, may, must など) がある場合； 助動詞 + not + 動詞の原形

I cannot [can't] speak English well.

我不太會講英文。

b) 疑問文の作り方

- ① be 動詞の場合； be 動詞＋主語

Is he a student?

他是個學生嗎？

- ② 一般動詞の場合； do [does, did]＋主語＋動詞の原形

Do you like skiing?

你喜歡滑雪嗎？

- ③ 助動詞がある場合； 助動詞＋主語＋動詞の原形

Can you drive a car?

你會開車嗎？

c) 命令文の作り方

- ① 主語 (You) を省略し，動詞の原形で始める。

Open the window.

開一下窗戶。

- ② 否定の命令文「～するな」は，Don't で始める。

Don't stand up.

不要站起來。

d) 感嘆文の作り方；次の2つのパターンがあります。（「驚き」の部分；下線部）に名詞を含むか含まないかの違いによる。）

- ① How＋形容詞／副詞＋主語＋動詞～！

How beautiful these flowers are!

這些花是多麼的美啊！

- ② What＋(a, an)＋形容詞＋名詞＋主語＋動詞～！

What an exciting movie we saw!

我們看的電影多麼刺激啊！

〔問題〕 次の各文を，（ ）の指示に従って書きかえなさい。（もとの文には，中国語

の訳がついています。)

- (1) Jane can play the guitar. (否定文に)
約翰會彈吉他。
- (2) My brother walks to school. (否定文に)
我的弟弟走路去學校。
- (3) She studied English last night. (疑問文に)
她昨晚讀了英文。
- (4) Your sister is good at English. (疑問文に)
你姊姊的英文很好。
- (5) They can tell me the way to his office. (疑問文に)
他們可以告訴我如何去他的辦公室。
- (6) She makes a cake very well. (感嘆文に)
她做蛋糕做得非常好。
- (7) This is a very interesting story. (感嘆文に)
這是個非常有趣的故事。
- (8) Your mother looks very happy. (感嘆文に)
你媽媽看起來很快樂。
- (9) You must get up at six tomorrow morning. (命令文に)
你明天早上必須在六點鐘起床。
- (10) You must not drink too much. (命令文に)
你沒有必要喝太多。

日本語・中国語解説 英語基本教材 (§6) 文型その5

[要点解説]

(S + V + O + C) 「～が(は) …を…にする」「～は…が…するのを(見る, 聞く)」
動詞の後に「…を」にあたる目的語, そして, その目的語を説明する補語(形容詞, 名詞など)が続く形。既に学習した「SVC (S=C)」の形と違って, 意味の上で「O=C」という関係が成り立つ。とても英語らしい表現の形。

[例文] 目的語の部分に下線, 補語の部分に点線が引いてある。

1. My sister always keeps her room clean. (意味として, (her) room=clean となる)
我的姊姊總是保持她房間的清潔。
2. They called Africa the “Dark Continent.” (Africa=the “Dark Continent”)
他們稱非洲為黑色大陸。
3. At last she found him dishonest. (him=honest)
最後她發現他不誠實。
4. I couldn't make myself understood to them in English.
我自己無法了解這些英文。
(myself=understood 「自分(の言うこと)が理解される」)

[整理]

これまで5つの文型を見てきたのは, これらが, 英文の基本的な形を理解する上で, 便利であり, 大切だからです。例えば, 同じ動詞(leave)を使っても, 文の形によって意味も違ってきます。次の3つの文の意味をくらべてみてください。

He will leave Sapporo tomorrow. (SVO 型)

他明天將要離開札幌。

His father left him a great fortune. (SVOO 型)

他的爸爸留下了很多財彥給他。

He left the door open all night. (SVOC 型)

他整晚開著門。

[問題] 次の文に、目的語 (O) もしくは補語 (C) があれば線を引き、記号をつけなさい。そして、文全体の意味を言いなさい。

- (1) My brother keeps some horses.
- (2) The professor always keeps his office clean.
- (3) All the class kept silent for a while.
- (4) My sister made me a pretty dress.
- (5) My mother always makes me happy with her smile.

日本語・中国語解説 英語基本教材 (7) いろいろな疑問文

[要点解説]

疑問文の基本的な作り方はすでに見てきましたが、ここでは、「疑問詞 (What, Who など)」を使った疑問文や、付加疑問文などを勉強します。実際、会話のかかなりの部分は疑問 (文) とその答えでなりたっています。付加疑問も、基本的には書き言葉でなく、話し言葉で使うものです。

[例文]

1. Where are you from? [疑問詞 (where=どこ) の疑問文]
你從哪裡來?
2. When will he arrive in Japan? [疑問詞 (when=いつ) の疑問文]
他幾點會到日本?
3. How much is this used car? [how much (2 語で)=いくら]
這台中古車多少錢?

4. Who drove you to school today? [who (誰が) が文の主語]
今天是誰載你來學校的?
5. What happened to him? [what (何が) が文の主語]
他發生了什麼事?
6. Ken can ski very well, can't he? [肯定文に対する付加疑問]
肯滑雪滑的很好, 不是嗎?
7. You didn't go to school yesterday, did you? [否定文に対する付加疑問]
你昨天沒去學校, 是嗎?

[整理]

- a) 疑問詞のある疑問文 => 疑問詞を文の最初に出し, そのあと, 「(1) 文の種類」でみた, ふつうの疑問文がくる。How などのあとでは, 複数の語をまとめて疑問詞と考える (How many=いくつ, How much=いくら, What time=何時 (に, で) など。cf. 例文3)。
- b) 疑問詞が主語の場合 => Who (誰が), What (何が), Which (どれが, どちらが) などが文の主語になる場合は, それらの後に動詞が続く。
(例文6, 7)
- c) 付加疑問 => ~です「ね」という感じで, 尋ねたり念を押したりする。
肯定文の後には否定の, 否定文の後には肯定の形がくる。

[問題1] 次の文の () に, { } の意味を表わす疑問詞などを入れなさい。中国語訳は, 全文の意味を表わす。

- (1) () is he angry with you? {なぜ}
他為什麼對你生氣呢?
- (2) () did you leave in the bus? {なにを}
你在公車裡遺失了什麼東西?
- (3) () () is your brother? {何歳}
你弟弟幾歲?

- (4) () broke the glass? {誰が}

誰打破了玻璃？

[問題 2] 下線部を尋ねる疑問文を作りなさい。できた疑問文の意味が、中国語で書かれています。

- (1) He began to learn Japanese last year.

他何時開始學日文的？

- (2) She goes to school by bicycle. (「どうやって、どのように」は, how)

她如何去學校的？

- (3) We had four classes yesterday. (「いくつの授業」は, How many classes)

昨天我們有幾堂課？

- (4) Bill told me about the accident. (「誰が(話したか)」を尋ねる)

關於這個事件是誰告訴你的？

[問題 3] 付加疑問をつけなさい。できた文全体の意味が、中国語で書かれています。

- (1) Your mother cooks well, () ()?

你媽媽菜煮得很好，不是嗎？

- (2) This telephone number isn't correct, () ()?

這個電話號碼不正確，是吧？

- (3) She will come to the party tomorrow, () ()?

她會來明天的派對，不會嗎？